

令和7年度第1回府中市障害者差別解消支援地域連絡会議議事録

■日時：令和7年7月17日（木）午前10時

■場所：府中市駅北第二庁舎 3階会議室

■出席者：（敬称略）

<委員>

長谷川敬祐、小野寺敏雄、佐藤祐一、竹内誠司、宮本敬太
原郷史、加賀美敦子、高橋史、栗山恵久子、山下桐子
高澤久美子、熊坂奈美、林達樹、村松深幸

<事務局>

障害者福祉課長、障害者福祉課長補佐、障害者福祉課主査（2名）
障害者福祉課基幹相談支援担当（4名）、障害者福祉課事務職員

■欠席者：（敬称略）

<委員>

築山忠泰

■議事：

1. 開会

- （1）資料の確認
- （2）自己紹介

2. 議事

- （1）啓発動画及びキャッチコピーの趣旨説明について
- （2）今後のスケジュール（予定）について
- （3）キャッチコピーの審査方法について
- （4）本日の流れ
 - ア キャッチコピー審査
 - イ 休憩
 - ウ 上位5作品を最終審査
 - エ 次回の議題を検討

3. 事務連絡等

■資料：

【事前配付資料】

資料1 委員名簿

資料2 席次表

資料3 キャッチコピー募集要項

資料4 啓発動画のキャッチコピー審査の流れ

資料5 ストーリーの絵コンテ

【当日配付資料】

資料6 審査シート

資料7 キャッチコピー一覧

議事

1. 開会

■事務局

令和7年度第1回府中市障害者差別解消支援推進地域連絡会議を開催いたします。なお本日の会議はおおむね2時間程度を予定しておりますので、ご了承くださいますようお願いいたします。

(1) 資料の確認

■事務局

会議を始める前にまず資料の確認をさせていただきます。本日の会議資料は、「レジュメ」が1枚、続きまして資料1「委員名簿」、資料2「席次表」、資料3「キャッチコピー募集要項」、資料4「啓発動画のキャッチコピー審査の流れ」、資料5「ストーリーの絵コンテ」、資料6「審査シート」、資料7「キャッチコピー一覧」になります。資料については以上になりますが、不足や不備がある方はいらっしゃいますでしょうか。会議の途中で印刷の落丁などがあった場合は事務局までお申し付けください。会議録を作成するにあたり、委員の皆様の発言を録音させていただいております。また記録のため、本日の会議の様子を写真撮影する場合もごございますのであらかじめご了承ください。

(2) 自己紹介

■事務局

続きまして人事異動などにより委員及び事務局に入れ替えがありましたので、改めて自己紹介をしていただければと思います。委員の所属、氏名、担当業務、どのような活動をしているかなど簡単にご紹介いただければと思います。

～自己紹介～

■事務局

委員の皆様ありがとうございました。続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

～事務局自己紹介～

自己紹介については以上になります。これからの進行につきましては会長をお願いいたします。

■会長

それでは早速議題に入りたいと思います。まず議事の（１）、（２）、（３）の部分について事務局からご説明をお願いいたします。

■事務局

それでは説明いたします。新しい委員の方もいらっしゃるので議題２の啓発動画及びキャッチコピーの趣旨について簡単に説明いたします。始めに近年、市の世論調査において不当な差別的取り扱いの認知度が平均して３割程度と低い状況にあり、障害者への差別解消や合理的配慮の考えが広く、市民に当たり前の考えとして定着するように継続的に啓発していく必要があると考えております。その中で障害者差別解消推進事業であるこの会議では事例の共有や意見交換、啓発ツールの作成について取り組んでまいりました。その中で若年層、とりわけ関心のない方々への啓発方法について皆で議論を重ねてまいりました。このことから短時間でも視聴者に伝わりやすく、表現の幅が広いアニメーションの啓発動画を作成することで、市民にとって身近でわかりやすい内容とすることに加えて、メッセージ性の強い啓発ツールとして継続して使用出来ると考えました。また意識の定着には若年層への働きかけも重要ですので、市内中学生に動画で使用するキャッチコピーの募集も合わせて実施することとなりました。次に動画の構成についてですが、動画のストーリーは委員の皆様にご作成いただいた資料５にあります４つの絵コンテを基に、３０秒のショート動画を作成する予定です。動画を見た方々が一歩踏み出すそんなきっかけになる内容になっております。次にキャッチコピーについてですが、キャッ

コピーは動画の最後に表示し、4つの動画に全て同じキャッチコピーを入れる予定です。資料3の募集要項の通り、6月2日から30日にかけて、府中市立の中学校に在籍の中学生から募集をいたしました。このあと、委員の皆様を選定していただきます。最後に動画を活用する媒体ですが府中市公式のYouTubeやInstagramといったSNSを中心に活用する他、市内小中学生に配布されているタブレット端末での配信。また市内にあるサイネージでの活用など、普段関心の薄い方達が動画を目にする機会が作れるように検討していく予定です。続きまして議題(2)の今後のスケジュールについてです。動画制作につきましては無事に動画の制作会社が決まりましたので、12月の動画完成に向けて打ち合わせなどを重ねていきます。また委員の皆様の思いを反映するために、正副会長に打ち合わせなどに参加していただくことを予定しております。動画完成後の1月以降は、先ほどお伝えした小中学校でタブレットでの配信や各媒体での配信依頼を開始していく予定です。キャッチコピーにつきましては本日の選定後、8月中にはご本人及び保護者へ使用の許可を取りまして動画に取り込む予定です。また表彰式の開催も検討しておりますので、実施方法や開催時期が決まりましたら皆様にお知らせいたします。最後に議題(3)のキャッチコピーの審査方法について説明いたします。資料4の「啓発動画キャッチコピー審査の流れ」をご覧ください。今回、応募件数は460件でした。まず1次審査では事務局7名で、1人10作品ずつ選定いたしました。次に2次審査では障害者福祉課長と課長補佐で、1次審査の選定作品から合計18作品を選定いたしました。今回の3次審査では事務局で選定した資料7にあります18作品を、評価基準に基づいて、委員の皆様を選定していただきます。評価基準はテーマ性、表現性、独創性、共感性の4つです。資料6の審査シートを使って採点していただきます。審査シートを集計後、最終審査に移ります。最終審査では、こちらのホワイトボードに5作品を書かせていただきますので、委員の皆様にご講評いただきご意見を皆様からいただきまして、そのご意見を参考に最後無記名で投票していただく流れになっております。議題(1)から(3)の説明は以上になります。

■会長

ありがとうございました。皆様から確認しておきたいことありますか。

(発言者なし)

(4) 本日の流れ

■会長

確認がありましたら、個別にご相談ください。

では(4)の本日の流れということで、キャッチコピーの審査に入りたいと思います。今日はある意味、とても重要な会議になっております。事務局からご説明があった通り、事務局で選定しているキャッチコピーの中から皆さんに点数をつけてもらい、上位5つを選び、その中で決選投票をするという流れになります。最初に資料6の審査シートと資料7のキャッチコピー一覧と対比しながら皆さんで点をつけるという作業をしてもらうことになります。この採点が終わりましたら、個人差がありますので事務局に提出してもらいます。事務局は集計作業があるので、終わったら早めに出してもらえると助かります。これに大体40分ぐらいの時間を想定しています。早く終わった方は、適宜休憩していただいて構いません。応募作品全体については、最後に別資料としてあります。大量な資料はありますが、これが良さそうだなというものがあれば、それも採点していただいて構わないです。資料6の最後のページに番号が空白のところがありますので、そこに自分で回答番号付け加えてください。なかなかここから選ぶと得点制限あるので上位に食い込むことが難しいかもしれないのですが、読んでみるとすごく個性的でなかなか尖ったキャッチコピーもあり、それはそれで個性があって面白いなどいうものもあります。ぜひそういう作品があれば選出していただければと思います。最終的に10分休憩に入り、その間に事務局に集計をしてもらい、その後上位5作品の最終審査を実施します。その前に皆さんで上位5位について意見交換をしてもらうことを予定しています。特に当事者の委員や、それぞれ専門性があるところから、こういった見方が出来るよというようなご意見があれば、その場で発言していただけると助かります。意見交換を踏まえ、最後に無記名投票をするという形になりますので、よろしく願いいたします。わからなくなったら、その都度事務局ないしは私宛にご相談いただければと思います。説明は以上となりますが大丈夫でしょうか。

(発言者なし)

■会長

いいですか。では審査を始めさせていただきます。ここから40分ぐらいですが、皆さんどうぞよろしく願いいたします。時間指定しておいた方がいいですか。

■事務局

わかりやすく11時ぐらいはどうでしょうか。

■会長

11時ぐらいまでにということです。よろしく願いいたします。

～審査～

■会長

席順で申し訳ないのですけれども、各委員、順番でもよろしいでしょうか。特になければないで構わないですし、それぞれの専門性からこれはこうですみたいな形で何かご意見があれば、皆さんに伝えたいことがあればというふうに思っています。

■委員

私も自分で点数つけてこちらでも全くそうだろうなという結果になったのですけれども、点数の上位からというよりは最後入れるのはテーマ的なこととか、響きも含めて決めたいなどは思います。

■会長

ありがとうございます。

■委員

好みの問題かもしれませんが、私は選んだキャッチコピーが4つの絵コンテの最後の1コマに1番ぴったりくるのかなと思っています。私は4番が1番いいなと思って、説明っぽくないのですけれども、最後のコマにこの言葉が入ったらなんとなくわかるかなみたいな、キャッチコピーはこういうものかみたいな私のイメージがありました。それを推そうと思っています。以上です。

■会長

ありがとうございました。

■ 委員

私はキャッチコピーのテーマというところで、今回のテーマの、一つの行動が大きな力となりますというところで、行動みたいなところを私は重きを置いて投票しました。それが当たり前になる世界というかそういうところを絵コンテに当てはめてみたところでした。以上です。

■ 委員

絵コンテの最後に出てくるのだと今改めて思ったので、それを加味して検討してみたいと思います。

■ 委員

279番の作品のように、気づいてないことが多いかなと思います。私もここに来てそういった現場の方の声を実際に聞いてみて、そういうことなのだと。気づいたらまた1つ変わるかなと思ったので、私はいいなと思っております。

■ 委員

私は全部直感で深く考えずにパッと選んだのですが、キャッチコピーとは別にキャッチコピーへの思いというところでは、458番の方の作品が、そういうことが言いたかったのよねということをしごくわかってきているなと感じました。

■ 委員

私は結構言葉から受けるイメージに敏感な方で、トゲが刺さってしまったりとか上から目線が来たりとか、あとはすごく私が一番敏感に感じているのは障害のある人となない人の世界をこの川があるというか、カウンターがあるというか、そこが私にとってはすごく意識があって、それを感じてしまうととっても辛くなってしまいます。それでこのキャッチコピーは障害がある方もご家族の方も読む訳だし、健常者の方がいるのかいないのか知りませんが、そういう方も見る、みんな見るのでやはりこの心の中から出てきた言葉というか、今までの常識とかそういう今までのこういう価値観とかそういうのに縛られたところから出てきたのではない言葉というのを選べばいいなと思います。

■ 委員

私は4番の作品が飛び抜けているとっていて、それはなぜかという
とやはり普遍性があるし、わかりやすいからです。もう1ついいなと思
っているのは458番の作品です。これが最近思っていることなのですが、
本当に日常的に障害のある人と接しているかどうかというのがすご
くある場面で効いてくるというか、本当に当たり前の生活を送るために、
お互いにどういうことに重きを置いてきたらいいのかという、体で学ぶ
ことというのがすごく大切かなと思、内容的には458番の作品が推
しです。

■会長

私自身こうだという意見があるわけではないのですけれども、やはり
色々な人が見る中でそうだよ、というふうに思えるようなスローガン
的なものがあるといいなと。そこに壁みたいなものを感じてしまうよう
なところだとわかりやすさがあっても、少しどうかなというふうなもの
もあったりするので、副会長も事前の打ち合わせで、手話で見るとまた
違った見方があるみたいな話もあって、そうなのだという気づきもあつ
たので、そういった目線で検討していただけると嬉しいなと思います。

■副会長

初めて文章を見せてもらって、○をつけるのは少し難しいなと思、
事務局にはそれをお伝えしていました。しかし、通訳者の2人の助けを
借りて、どういう理解をすればいいのかを聞いてから、私も実は選出し
ました。その中で、投票数が1位のなは4番ですけれども、私は逆にろ
う者から見ると少しわからないなと思いました。2位はすごくわかるな
と思うのです。2位以下は良かったけど、1位だけが意味が捉えられな
くてわからなくて、それが最後に出てきて繋がるのかどうかという意見
です。私の場合は聞こえないので、皆さんと見方がやはり違う。視線を
合わせて会話することが大事なのです。目がすごく重要なのです。そ
こから理解していますので、目線が合わないと全く印象が変わってき
てしまう。やはり集中して見られるとなんだろうと感じるという感覚を持
っています。聞こえる方達の場合は、友達同士2人で目線を合わせないで
もしゃべることが出来ますよね。それが出来るというのはわかっている
のですけれども、聞こえない私としては目線が私に合わないと話しかけ
られているという気がしない。だからそういう見方とかがすごく大事で
す。目から伝わる優しさ、気持ちを理解するというのが自然に現れてい
る。違和感を先ほど委員が言ってらっしゃいましたよね。そういう気持

ちも私にありますので自然に目から柔らかく伝わるものがないかな、心から湧き上がってくる感じのもの。言葉が伝わってくるものがないなと思います。

■会長

なぜ4番が伝わらないのかすごく知りたくなくなりました。

■副会長

普通の日本語だなあと感じました。何か印象が薄いというか、なぜ皆さんが入れたくなるのかというのが逆にわからないと思いました。

■会長

なるほど。

■委員

ちなみに4番のキャッチフレーズを手話でやるとどういう表現になるのですか。

■副会長

(手話について説明)

■委員

そのことしか伝わらないのですね。その奥の意味というのはわからない、手話だと。何かちょっとおっしゃっている意味がわかりました。それだけになってしまうのね。すごくよくわかりました。ありがとうございます。

■委員

私が選んだ基準は絵コンテの最後にキャッチコピーが来るということで、単純に選んでしまったなど、皆さんの意見を聞いて、考え直して投票したいと思いました。

■委員

私も他の委員と同じように、絵コンテの最後にポンと言葉が来るというところで、あっ、という感じで選んだ部分があるのですが、内容といえますか、そもそも目的が何なのかというところをもう一度、募集要項

のところから見直して考えると確かに「特別じゃない」、差別というところがその人に対して特別に何かをするのではなくて、そういうことがない当たり前だよというところを今やっているのだなということを考えて、あと同じように手話の方は、そういった障害の方が見た時に伝わる、伝わらないというところも重要なのだなということに気づかされたので、そちらを考慮して選びたいと思います。

■委員

私も他の委員と同じように動画の最後に出てくることを意識して選んだので、今回はキャッチコピーの提案をしているのが中学生なのですが、小学生が見ることを踏まえて、わかりやすいものがいいと思って、199番の表現が一番わかりやすいと思って、推しております。

■委員

私も自分で最高点をつけたのが3位と2位でした。やはりそれ以外のものは抽象的というか、見る人によって解釈が変わってきてしまうのではないかと感じました。それ以外の作品も見させていただきましたが、本当にいいものがあるというところで、甲乙つけがたいと思いました。

■会長

時間のない中で恐縮なのですが、他のものも手話で見たいと思いますが、可能でしょうか。手話も入ると思うのですが、そこは。

■副会長

(手話)

■会長

もし他の方で、見方として例えば発達障害の人だとかこういうふうに見えてしまうとか、知的障害の方だと厳しいのではないかというようなことがあればと思いますが、いかがでしょうか。

(発言者なし)

■会長

あまり考えすぎると、大変なことになって何も決められないという選択肢になりますので、どこかで割り切るしかないのですが、何かここで

共有しておきたいことがあればですが、大丈夫ですか。よろしいですか。では投票用紙に無記名ですので、番号を記入していただいて、投票箱に入れてください。

(投票)

■会長

1位になった458番ということで行きたいと思います。あとは動画の中で書き方とかを工夫していただいて、場合によっては特別という漢字も調整するというところもあるかもしれませんが、458番で行きたいと思います。ありがとうございました。時間が大分押していますので、議題の4番のエのところに関しましては事務局と正副会長の方で検討させていただきたいと思いますが、どうしても次回ここでやってほしいという方がいらっしゃいましたら意見を受け付けたいと思います。大丈夫でしょうか。

(発言者なし)

■会長

3の事務連絡について、事務局からお願いいたします。

■事務局

ありがとうございました。最後に事務局より事務連絡させていただきます。先にお送りさせていただきました委任状ですが、まだ提出されていない方は会議終了後に事務局までご提出をお願いいたします。次回の会議は12月に場所が確定する予定でして、1月くらいの開催を予定しております。会議日程の調整等につきましては別途連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。最後に資料7の「キャッチコピー一覧」と全応募リストは回収させていただきますので、机の上に置いてお帰りいただければと思います。事務局からは以上です。

■会長

ありがとうございます。あとは皆様からよろしいでしょうか。

(発言者なし)

■会長

ではこれをもって本日の議事は終了となります。お疲れ様でした。